しのびよるファシズム＝原理研

我々「原理の被害者を出さない会」では、11月祭参加企画として、茶本繁正氏の講演会を開催することにしました。この機会に「しのびよるファシズム＝原理研の実態」について、もっと知ろうではありませんか！

1958年6月、当時まだ正式に国交が開かれていなかった日本にひとりの男が密入国する。男の名は崔翔翼（日本名・西川勝）。文鮮明の指示によって布教を目的に密入国し、翌年から布教を開始する。1964年7月16日、宗教法人日本統一教会設立。ひきつづいて全国学生原理研としてスタートする。統一協会会長久保木修己は立正佼成会庭野日敬会長の秘書をしていたが転向して統一協会に入ったのである。なお立正佼成会で最初に統一協会と接触を持ったのは、初代大学原理研会長小宮山嘉一で、久保木が立正佼成会をさるときに大量の青年信者が行動を共にし、これが日本統一協会の基礎をつくったといわれている。さらには政治団体「国際勝共連合」が設立される。統一協会などを支える金はどこから出ているのか。信者たちによる"万物復帰"の献金だ。そして募金や花売り、人参茶や薬売り、自然食品などの訪問販売などとても大切な"原理運動"である。その金は統一協会の資金となり文鮮明にも渡っているようである。原理研の会員たちは"共産主義に対する武装"だと称して、空気銃を大量に不法所持しようとしたことがある。

最近の原理運動の特色は、大学教授や文化人をかかえこみ、政治家、財界人を顧問格に据えている。なによりも恐ろしいのは、こうした原理運動を積極的に推進している信者が、保育園から小・中・高等学校まで先生となって教えていることだ。まさに"揺籃から墓まで"の原理運動は「宗教」の仮面をかぶり、その実は「反共」・「勝共」で理論武装した恐ろしい性格をもったものといえる。統一協会の"原理運動"の反社会性とファシズム性をすべての職場・学園・地域で厳重に監視していかなければならない！

"国際勝共連合"

原理運動が日本で広がり始めるや、統一協会を母体とした国際勝共連合が、1968年1月に韓国で、続いて同年4月1日、日本で設立された。

発足前年の67年7月、山梨県本栖湖にある全国モーターボート競走連合会の施設で、"アジア反共連盟結成準備会"の会合が来日した教祖・文鮮明と、日本側の笹川良一を顧問にした右翼陣営との間でもたれた。しかし、"アジア反共連盟"の実現をみることはなかった。

その後、この本栖湖会談の精神に基づいて笹川良一を名誉会長（72年辞任）に、久保木修己を会長とした勝共連合が作られた。

目的は「勝共理論」により国民を啓蒙し、当面日本を革命から守り共産主義を日本から一掃すること。活動内容として、反共諸団体との連合・提携による勝共統一戦線の確立、その他をあげている。

ところで、なぜに反共ではなくて「勝共」なのか。それは、反共とは共産主義に反対・否定・排斥しようとすることであるが、「勝共」とは、共産主義（者）を直接相手にし、論理的に"勝つ"ことのできるようにということらしい。ここでいう共産主義者とは、自分たちに賛成せず、協力しない人たちすべてが含まれる。

[illegible]が「勝共会議」をもつ勝共連合は、日本の政界・財界・学界と結びつき、日本権力者構造の中で育成され、作戦してきた。また、勝共連合の活動を追ってみると、なぜか自民党の政策と妙に一致している。それはあたかも自民党の"露ばらい"を演じ、また韓国政府の代弁をしているかのようだ。

統一協会のもつ「宗教」的理念を媒介として、その内にある「反共」―「勝共」論を基本理念に据えた反共・ファシズム国際運動が日・韓・米・欧を貫いて展開されている。

血分けの儀式―合同結婚

集団（合同）結婚式は、その"教義"上からも重要な意味をもつものである。この結婚の目的について「結婚の目的が善なる子供の育成にあることはいうまでもありません。夫婦は長い間の信仰的教養と人格的資質を高め、幸福な家庭、社会、国家に貢献することに目的があるのです」それが統一協会の目指す理念世界実現の一つのステップなのです。

「統一原理」、「勝共論」を身につけた信者たちが全世界にばらまかれ、"生めよ、殖やせよ"で"芋づる"と信者をふやしてゆくことになる。（続く）

※なお、このビラは「しのびよるファシズム＝原理研」シリーズビラ第1号です。

11月祭参加企画
―反原理講演会―
しのびよるファシズム＝原理研の実態
講演者：茶本繁正氏
とき：11月12日（火）PM4:00〜　ところ：京大教養部A141

原理の被害者を出さない会
℡ [redacted]（内）